

5. 一般臨床の中の小児歯科：その現状と展望

◦ 松本晋一

(人吉市・松本歯科)

演者は人口4万の小都市の開業医として4年目を迎えました。その地域背景と経験の中から、よりよい小児歯科診療を遂行するにあたって、診療の現状、小児歯科の守備範囲（何ができて何ができないのか）、その理由因子について、及び今後の診療内容の充足課題等を地域開業医の観点から展望し、考えを述べてみたいと思います。

6. 可撤性保隙装置の咀嚼回復についての検討

◦ 吉元辰二，大野秀夫，永井真弓，森主宜延，小椋 正

(鹿大・歯・小児)

可撤性保隙装置は、主に Dental Age III A 期以前に多数乳歯の欠損した小児の保隙、また審美性や咀嚼能の回復を行なう重要な装置であると考えられる。演者らは今回咀嚼の回復に焦点をあて、可撤性保隙装置を装着した場合、咀嚼の回復が充分行なわれているのか、あるいはどのような変化がみられるのか筋電図を用いて検討したので報告する。

7. ダウン症児の歯科学的研究

(その1) 乳歯萌出について

◦ 武田康男，(北九州市立総合療育センター・歯科)

中田 稔 (九大・歯・小児)

ダウン症の乳歯萌出へ及ぼす影響を調べるため、ダウン症48名(資料月齢9ヶ月～42